「日本海」呼称について

芳　井　研　一（新潟大学）

はじめに

韓国は、1991年に国際連合に加盟して以降、国連地名標準化会議等において、繰り返し「日本海」の国際的使用に異議を申し立ててきた。「日本海」呼称が一般的に用いられるようになったのは、19世紀以降に日本がこの地域で支配的な地位を占めるようになったからである。今日では「東海」呼称に改めるか、解決策が見いだされるまで「東海」と「日本海」を併記すべきである、と。北朝鮮もこの申し立てを支持し、植民地主義と関連した問題であると指摘した。

今後環日本海研究をさらに推進し、相互交流をますます密接にするためには、呼称の問題を避けて通ることは出来ない。であれば、まず呼称の由来や普及の経緯等について共通の認識と理解を積み上げることが必要となろう。

1.「日本海」呼称の成立

「日本海」の呼称が世界の地図に初めて登場するのは、今日確認出来るものとしてはマテオ・リッチの「坤輿万国全図」である。

大陸に接した内海と認識されるためには、蝦夷とサハリン、それに朝鮮半島が視野に入ってこなければならない。16世紀末にはまだ蝦夷・サハリンについての確かな情報はないものの、ヨーロッパから来た人々、とりわけ宣教師たちによって朝鮮半島とともにそのおぼろげな輪郭が把握されつつあった。そのうちヴァリニャーノの記録には、一つの重要情報があった。言うまでもなく秀吉の朝鮮侵略である。この明国に戦争を挑み朝鮮に出兵した16世紀末の日本のイメージこそ、「日本海」呼称成立の直接の前提であった。

マテオ・リッチは秀吉が明国に戦いを挑んで朝鮮侵略を実施したこと、秀吉軍がオランカイまで兵を進めたことを知っており、その知識を地図標記に反映させたといえる。明国の東に「大明海」があり、日本の西に「日本海」を初めて記載した要因は、宣教師たちの日本認識を前提としつつも、直接には秀吉の朝鮮出兵であったといえよう。

「日本海」表記が本格的に登場する地図は、外国人ではラ・ペルーズ、アロウスミス、クルーゼンシュテルンの図、日本人では山村才助や山田聯等の図である。前者には、この海の探検や測量の結果が反映している。秋岡竹次郎氏によると、アロウスミスは、イギリスの日本西南部探検者コルネットが1789年に対馬海峡を通って「日本海」に入り北上したときの報告書と地図を利用してこの日本図を作製したという。17世紀に日本で登場した「日本海」表記が、マテオ・リッチの「坤輿万国全図」を源泉としていたように、実は19世紀初頭の日本地図のモデルもアロウスミスなどの外国人が作製した地図であった。

2.「北海」という呼称

少数ではあるが、「北海」と記載した地図がある。1843年に刊行された「越後国細見絵図」には「北海」と記されている。松浦武四郎が1849年に作製した「蝦夷国沿革図」では、日本の西側の海を「北海」、東側の海を「東海」と呼称した。

アロウスミス図、クルーゼンシュテルンの「日本海」航行、「北夷」論等にかかわる形で、19世紀初頭に日本で作製された多くの地図の上に「日本海」が表記されることになったものの、実は「日

本海」呼称は幕末に至るまで一般に流布していた訳ではない。

それどころか明治維新以降においても、一般には「北海」呼称が使われていた。「日本海」呼称が普及する決定的契機は、日露戦争の海戦が「日本海海戦」と名付けられ、繰り返し語られるようになった時であろう。

3．地理教科書にみる「日本海」呼称の普及

地理教科書に初めて「日本海」が表記されるのは、同じ1869年に刊行された福沢諭吉訳述の『頭書大全世界国尽』である。これが初出であり、この年発行された他の教科書には一切出てこない。

それでは福沢の『世界国尽』は、何故あえて「日本海」呼称を用いたのであろうか。実は彼はコーネル「地学初歩」などのテキストに記述されている通りに忠実に「日本海」を表記した。“CORNELL'S FIRST STEPS GEOGRAPHY”のアジア図には Sea of Japan と表記しており、福沢は「作意」を交えず、この呼称を用いたといえよう。

初期の地理教科書の何冊かは本書の抄訳であったり、それを編集したものである。翌1870年には、４冊の地理教科書が刊行されているが、松山棟菴訳の『地学事始』も、コーネル本を用いている。この本はアメリカで発刊された地理書や歴史書を訳出したものであると記されているように、コーネル本以外の地理書も使っている。ただ全体の枠組みは前年に福沢が刊行した『世界国尽』と同様であり、「日本海」の記載と「太平洋」「支那海」がセットになっていることも同じである。松山は慶應義塾関係者である。維新期に相次いで刊行された慶應義塾系の教科書には、「日本海」呼称が記載されていた。

翌1870年に刊行された内田正雄の『輿地誌略』にも、「日本海」の表記が登場する。表紙には大学南校と記されており、さきの「重訂万国全図」と同様に、同校が「日本海」呼称を用いていたことがわかる。『輿地誌略』の原本は、マッケーやゴールドスミス、カラムールスの地理書であるが、折に触れて「他書より抄出」したという。

後に明六社に結集する福沢諭吉をはじめとする啓蒙思想家は、西洋経由の地名表記をそのまま初期の地理教科書に導入したのであり、その過程で西洋で用いられていた「日本海」呼称を受け入れたのであった。そして1869年以降の数年間は『開知新編』のごとく、なおめいめいの呼び方が地理教科書に用いられていたものの、私が実際に現物を確認した地理教科書の「日本海」表記を整理した表に明らかなように、1874年前後には教科書における「日本海」呼称がほぼ普及することになる。

4．海図に見る「日本海」呼称の普及過程

海図において「日本海」の呼称は、いかなる経緯で、いつから使われるようになったのであろうか。1881年までの『水路部沿革史』の関連資料には、「日本海」の呼称は出てこない。1882年の資料のなかに、初めて「日本海」の表記が登場する。また同年の水路局作製「台風針路図」には、「日本海」の表記がある。水路部において統一した呼称として「日本海」が使われるようになるのは、1882年頃である。

海軍省水路局には、自ら意図するにせよ、そうでないにせよ「日本海」の呼称を受け入れざるを得ない環境があった。海図作製にあたり、主として依拠したのがイギリス海軍水路部のものであり、そこには「日本海」と表記されていたからである。1869年には日本国内の各港湾図が、「英国海軍海図」として翻刻刊行された。その後もイギリス版海図の復刻がその都度刊行される。水路局の実測が進むにつれ、それに基づいて編集された地図も刊行されるようになった。自力で製作できない海図についてはイギリス海軍水路部のものが多用されることになった。その結果、海図において「日本海」呼称が慣用的に使われるようになった。

5．朝鮮半島における「日本海」呼称の普及

「日本海」呼称の負の側面が最も強くあらわれたのは、植民地期の朝鮮半島で強制的にそれが用いられた時期である。1945年の光復の日まで、「東海」呼称を正式呼称として使うことは困難になった。朝鮮総督府が教科書編纂に乗り出し、教科書におけるこの海の呼称は「日本海」に統一された。

そのような措置は、韓国開化期の教科書に対する日本人補佐官等の関与の頃から始まる。1906年に学部が編纂した『普通学校学徒用国語読本』には、挿入されている五つの地図に「日本海」が表記され、清国の地図の揚子江の東に「東海」が記載されている。本文の「韓国地勢」「我国北境」「五大江」という三つの課の文章中に「日本海」呼称が用いられている。韓国の「東海」呼称をしりぞけ、「日本海」を使い始めたことがわかる。また玄采著の1907年刊『幼年必読』と1909年刊『新纂初等小学』の「亜細亜図」も、「日本海」と記載されている。一方「日本海」の記載がなかった1895年刊の『国民小学読本』などは、1910年の韓国併合後に発売が禁止された。

朝鮮総督府が編纂した1910年以降の教科書になると、すべて「日本海」表記で統一されている。1922年刊の『普通学校国史』、1923年刊の『普通学校国語読本　巻六』、1924年刊の『普通学校朝鮮語読本　巻四』などに「日本海」の記載がある。日本の朝鮮植民地支配期を通して、朝鮮半島では日本人として「日本海」呼称へのアイデンティティが強制されたのである。朝鮮半島で「東海」呼称が復活するのは、日本の敗戦後である。

おわりに

韓国の人々は、古来この海を「東海」とよびならわし、愛着をもってきた。日本の植民地支配の時期に「日本海」呼称が強制され、同じ時期に「日本海」呼称が国際標準化したという経緯を踏まえるならば、呼称の修正を国際社会に求めることはそれなりに理解できよう。

ふり返れば、「日本海」の呼称は日本人が案出したものではなかった。まず17世紀初頭にマテオリッチが「坤輿万国全図」に「大明海」とセットにして「日本海」呼称が用いられた。それがその後の「日本海」表記に直接・間接の影響を及ぼした。日本の地図作製者の一部はそれを受け入れた。

明治維新政府の下で「日本海」表記が普及した直接の契機は、コーネルの『地理初歩』が「日本海」と記していたからである。福沢諭吉がそれを受けいれ、やがて文部省も使うようになった。海図の表記の責任機関は海軍水路局であったが、彼らは当時最も精巧で、様々の海図がそろっていたイギリス海軍水路部海図の「日本海」表記を受け入れた。

一方日本の多くの一般住民は、この海を「北海」と呼び慣わしていた。教科書や海図に「日本海」が用いられるようになってからも「北海」と呼んでいた。1900年前後に地域社会で「日本海」呼称を使い始める際に考えられたのは、「日本海」を地中海のような互恵的な交流の場にしたいという希望であった。「日本海」領海論ではなかった。だからこそ日露戦後には松波仁一郎らが、ことさら「日本海」を「日本の内海に！」と叫ばざるを得なかった。「満州事変」期には「日本海湖水化」時代が到来したとキャンペーンを張る必要があった。「日本の海」というニュアンスを多くの人々が抱いていたならば、あるいは第二次大戦後の時期に呼称問題が浮上していたかも知れない。

そこで解決策であるが、当面の国際的な呼称として「東海」と「日本海」の両名併記する案などが模索されてもいいだろう。ただ最終的な解決のためには、両国住民の「東海」と「日本海」というそれぞれの呼称への愛着を前提としつつ、日本・韓国・北朝鮮・中国東北・ロシア極東などに住む人々によって新しい名前をつける作業を進めるしかない。

これまで出された新名称に加えて、私は「共通

の海」、あるいは「共生の海」、「協生の海」を表現するものとして、「共海」や「協海」」と名づけるも一案かなと思う。また歴史をさかのぼって調べてみると、両国の古代史のなかで「滄海」という呼称が使われた時期があり、これもいいかと思う。いずれにしても、そんな話題を話し合うことの出来るテーブルが用意される日が来ることを期待して止まない。

COMMENT

櫛　谷　圭　司（新潟大学）

韓国では、「『日本海』という呼称は日本の植民地政策のもとで押しつけられて国際的に普及したものなので、『東海』と改めるべきである」との基本姿勢を官民ともに鮮明にしている。韓国政府は、92年に国連地名標準化会議での問題提起を皮切りに、国際水路機関（IHO）等において繰り返し主張している。

これに対する日本政府の基本的立場は、「日本海の名称は日本が鎖国していた19世紀前半には国際的に定着していることから、韓国の主張は歴史的に誤っており「東海」の名称は認められない」（海上保安庁、2002年8月14日記者発表資料）というものである。すなわち、「日本は西洋諸国が使用していた名称を彼らの地図を通じて取りいれ当該海域の名称として使い始めた」のであって、「韓国による、『日本海』の名称が20世紀前半の『植民地主義の残滓』等であるとする主張には全く根拠がありません」（同 Web site より）と韓国に反論している。

日本はこの根拠のひとつに、古地図の表記など歴史的事実をあげている（外務省 Web site 参照）が、奇妙なことに韓国の主張の根拠もまた、「東海」と表記された古地図の存在なのである。公開されている、多数で有限の判断材料があって、その評価ポイントが地名表記という明白なものであるにもかかわらず、異なる論理により正反対の結論が導かれ、政治・外交問題にまで発展している、という構図である。

日韓の歴史学者の役割は、まず古地図の客観的な分類を行い、その結果を事実として共有するところから着手し、この問題に関する共通の基本認識を持つよう努めることではないか。「日本海」の呼称が日本の植民地主義の結果であるかどうかは、その次の段階の問題であり、学問的テーマというより政治的テーマであると思う。

［参考］　外務省Web site「日本海呼称問題」 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nihonkai_k/
海上保安庁Web site「日本海呼称問題」 http://www1.kaiho.mlit.go.jp/cue/KIKAKU/nihonkai/